

## 平成25年度 わくわく市民懇談会

1 日 時 平成25年10月15日（火） 午後6時～午後7時20分

2 場 所 米山地区集会所「さくら」

3 出席者 米山地区の住民、地区役員 約15名、市議会議員 1名  
市長、随員職員2名

### 4 次 第

1) 開会（米山地区活性化委員会事務局）

2) 主催者代表あいさつ（米山地区活性化委員会 高橋会長）

3) 市長講話・懇談

「米山地区の今後の活性化策について」

- ・冒頭のあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・中野市のポテンシャルについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・北陸新幹線開通について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ・中野市のPRについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ・観光戦略について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ・宿泊施設（ゲストハウス）について・・・・・・・・・・・・ 6
- ・農業政策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ・その他の施策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

4) 懇談会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

5) 閉会

## 市長講演 「米山地区の今後の活性化策について」

### 冒頭のあいさつ

- 中野市長の池田でございます。就任して間もなく一年になりますが、なかなか市長が考えていることがよく分からないだとか、政策がよく分からないとか言われておりますが、少しずつですけれど、私の考えを出して行けたらと思っております。
- 今日はお声をかけていただき本当にありがとうございました。また、今日はお配りする資料も何もなくて恐縮ですが、先日、NHKで放送された「キッチンが走る！」という番組で、この豊田地域が取り上げられて有名になりましたので大丈夫だと思いますが、グリーンツーリズムとか、どうしても人を寄せたいという点で、今私が考えていることを、少しでもぎっくばらんにお話しできたらと思っております。よろしく申し上げます。

### 中野市のポテンシャルについて

- 私は、サラリーマンを経験して市長になりましたが、長い間中野市にはいませんでした。ただ、いなかったとは言っても盆暮れには帰省していましたが、3年ほど前に横浜でのサラリーマン生活を辞めて、3年間は種屋をやっていました。また、その前も、私が53歳の時に父が他界しましたので、7年前くらいから、ほとんど「月金族」で、週末にはこちらに帰ってきて、また横浜に帰るという生活を続けていましたので、それほど中野の事を知らないというわけでもありません。
- つとに考えたのは、中野市が、うんと力があるのにそれを活かしきれていない、情報も外へ伝わっていない、ということをやまず思っています、もう少し皆さんがまとまれば、この中野市はもっと人が訪ねて来てくれたり、私たちの作っている物も売れたりするのではないかと思った次第です。その辺りはやっぱり足の引っ張り合いじゃなくて、それぞれの地域がまとまって「自分たちはどうしたい」ということを明確に出してもらえれば、私としては、そういった思いが一つの集団にはどんどん支援する体制をとりたいと考えています。
- 今までどちらかと言うと「ある程度形ができないと何かしない」と言っていたのですが、そんなことをやっていたのでは遅くて、思いが一つになって、やるべきこと・方向性がはっきりしていて、都会から人が来てくれるとか物が売れるとか、交流・連携・協働って言いましたが、そういうことがみんな一緒になって、人に来てもら

いただとか。そういう思いだったら、やっていきたいと思いますということで今取り組みようとしています。

- 去年のことです。実は、長野県には「グリーンツーリズム協議会」というのがあるんですが、たまたまパンフレットを見ていたら、なぜか中野市だけが入っていなかったのので、おかしいと思ひまして、さっそくその協会に入りました。
- まさにグリーンツーリズムという点では、ひょっとしたら、森林セラピーじゃないですけど、豊田にはそういった資産がたくさんあるのではないかと思っています。また、美味しいものもたくさんあり、それから「日本の原風景」もあるということで、これは絶対外に向かつて、人を呼べる力がある所だと、私は確信しております、嘘も何も言うつもりはありませんが、力を入れていきたいとかねがね思っていました。

## 北陸新幹線開通について

- 一方で、新幹線の名前が最近決まりました。「(長野)」のかっこは取ってほしいと運動しているのですが、「・長野」でできないのかなと思っています。少なくともJR東日本だけは「北陸・長野新幹線」にしてくれるといいなと、「長野経由」はないだろうと思っていますけど、いずれにしても新幹線がひけると、私は、従来は人が増えると思っていたのですが、逆に「ストロー効果」の方が強いかもしれないし、開業当初はやはり北陸方面に人が通過していくということが多くなるのではないかと思っています。
- これは、身近では佐久平に新幹線の駅ができたことによって、小諸市の経済力が若干落ちて、数年前の人口統計によると、3,000人くらい人口が減っています。そして小諸市の人口が3,000人くらい減ってはいますが、相対的にその分が佐久市に流れている構図になっています。神奈川県では、小田原に駅ができたことによって隣の駅がある平塚市の人口がやはりぐんと落ちています。これはまた端的に表れていまして、例えば、従来平塚江南高校と言ったら、ものすごい進学校で良かったのですが、それが、新幹線ができたことによって、小田原高校にシフトしてしまいました。
- 高速交通網がひけることによる影響と言うのは、私たちが考えている以上にすごい力を持っていて影響力が高いので、それに対してやはり情報発信していかななくては振り向いてくれないし、逆にそれを逆手にとって、「近くなったからお立ち寄りく

ださい」というようなことを言っていないと、いつまで経っても、例えば東京に行って説明するときは、小布施の北、志賀高原の入り口、湯田中の手前とか、その説明しかできない。

## 中野市のPRについて

- この間「川サミット」というのがありまして、川上村に行ってきました。川上村は高原野菜のレタスで有名ですけれども、村長の藤原さんの話を聞いてきましたが、川上村で思ったことは、とにかく川上村の人たちは、辺地債とか使いまして、すごく街なみも整備されています。ただ、川上村は、今、ものすごく外から人を入れていまして、たしか人口の4分の1が海外の人です。「何人ぐらい外国人労働者がいるのですか」って聞きましたら、人口の4人に1人が海外の人だそうで、そういった海外の人が働いていて川上村はもっている。これからは人口減少とは言っても基本的にはそうやって外から人が入ってくる時代になるのではないかと思っています。
- 「今井通子（みちこ）さん」という登山家ご存知ですか。私は、横浜時代に今井通子（みちこ）さんに2回ぐらい直接お会いしたことがあって、「覚えていますか」ってお聞きしましたら覚えていますって言ってくれたので、ちょっとお話しする機会がありました。そこで今井さんに「中野市って分かりますか。」とお聞きしましたら、分からないと答えられました。そのあと、今井さんが「10月の初旬に山ノ内町に行きますよ。」と言ったので「中野は山ノ内町の手前ですよ。」って言ったら笑っていました。また、今井さんが「そういえば、そのあたりにサクランボ狩りとかリング狩りに行ったことがある。」と言ったので、「多分そこですよ。そこ」というようなやり取りをしたのを覚えています。
- 要するに、生産されている地域がどこだっていう名前と一致していないのです。なんでそうなるかと言うと、宣伝していないからです。「ここは中野ですよ」「ここは豊田ですよ」っていう宣伝をしていないのです。そんな意味もあって、今週か来週あたりだと思いますが、「故郷のふるさと」という商標を、とある友人が取ってくれまして、中野市に頂けることになっています。そんなようなものをやっぱりいろんな商品に使ってもらおうとか、「信州なかの」っていうシンボルマークも使っていますけど、それ以外にも、「故郷のふるさと」、それでイメージを定着させていくということを、とにかくやっていきたいと考えています。

## 観光戦略について

- 総じて私がこれからやりたいのは、とにかく観光戦略です。観光というと従来の観光じゃなくて、先ほどもらった「ふるさと回帰支援センター」のパンフがありますが、やっぱりこれからは農村に憧れるっていう人たちが増えているということを私も肌で感じています。
- 実際に私の先輩も定年退職した後に、佐久に1人、小諸に1人、農業をやりに、神奈川県の三浦だとかに住んでいた人が土地を売り払って移住して来て、そこで住んでいます。なぜかって言ったら、やっぱり空気が良いとか、自然が良いとか。これからそういうニーズはたくさんあると思っていますし、ましてやこれから変な話ですけど、東海、東南海、南海という太平洋側の危険のことを考えれば、リスクを考えると、やっぱり信州に来てほしいなと思います。私はあからさまにそういった意味では、相対的に「信州は安全ですから来てください、少なくとも津波は来ません」と申し上げたい。具体的には、今井さんが言っているような森林セラピーの話とかツーリズムとかです。とにかく、もし新幹線がひけると、この地域はもっと便利になる。というのは海に近くなる。さらに山が近い、都市も近いということになると、ちょっとした移動においては利便性を、また、住んでいることにおいては、空気がきれいで良いところだ、ということで売り込みたいと考えています
- 観光の面では、これから新幹線の飯山駅ができるまでには、中野市を紹介するビデオを来年は作りたい、そして映像を駅等で流したいと考えています。あともう一つ、豊田の関係で言いますと、替佐駅の整備をしたいと考えています。これはJRさんと話を進めていかなくてもはいけませんけど、やはり駅を降りたときに、この街は人に来てもらいたい街なのか、街でないのかというのは、すぐ分かります。そういうことはやりたいと思っています。信州中野駅もそうですけど、旅は2次交通も考えなくてはなりません。これも今協議に入っているところですけども、私は、別に大型バスを走らせるわけじゃなくて、どこかヘッドクォーター（本部）があって、何人ぐらい、何時に着きますのでと言ったら、それに合わせたバスを迎えに行かせてもいいような気がします。
- いずれにしても豊田地域は、飯山駅を降りてから道の駅に向かって「故郷のふるさと」と言われる方面の玄関になると思っています。そういうことで人に訪ねてもらいたい。ただし、これもよく話しているんですけど、ある方に言われたのですが、合掌づくりの白川郷みたいにバスがガンガン来て、人が数珠つなぎに歩くような観光地にはしたくないと思っています。やはり、原風景で自然のままにそこに人が暮らしていて、その中で溶けあって住みたいとか、体験したいというような環境の整備をしたいと思っています。例えばもうちょっと言うと、ちょっとした山歩きの

ための道を整備してあげるだとかして、「歩いて楽しい」そんなような世界がもし演出できたら、農業体験もそうでしょうけど、私は「故郷のふるさと」に来てくれると考えています。

- ある建設会社の副社長だった人に「かの山」の写真を見せたら「よそがやっているような観光政策絶対やっちゃだめだ。」と言われました。大型バスが何台も停まれるようなことをやるよりも、「一日限定10組、1人1万円のガイド料で来てください、いろんなところを案内します」とか、そういうような仕掛けを考えていたら、その方がおっしゃるには、「必ず客は予約を入れる。限定と言われた途端に入れてくれるよ」と。確かにおもしろいと思いました。そのためには、細かなところで、景色のいいところを選んでいろんな整備と言うか、ちょっと手を加えなきゃいけないところがあるかもしれませんけれども、原風景そのものは直す必要はないと思っています。人は造られた世界にもう飽き飽きしているというか、だから来るということがあると思います。

## 宿泊施設（ゲストハウス）について

- 今、豊田についてはそんなことを考えていますが、一方で、中野市には宿泊施設があまりないので、この間、松野議員から言われたことに関しましては、鋭意進めようと思っています。というのは、交流の家みたいな宿泊施設、そういうところは、もし指定管理制度にするのかどうか分かりませんが、とにかくワッと外から学びに来た時、体験に来た時に、みんながそこでこぞって学ぶ人も寄って、ちょっとした交流ができるとか泊まれますといった施設が、やっぱり必要だと感じています。それは、豊田に限らず、中野の街の中にも必要だと思っけていまして、観光開発と言う意味では、これからはゾーンを設けまして、特徴がある地域ということで作っていきたくて思っていますけれども、豊田はそういう意味では、グリーンツーリズムとか、豊かな自然とその育まれていわゆるスローライフじゃないですけど、のんびり暮らしているという世界をきれいに見せられたら本当にいいな、やってきてほしいなと思っていますけど、そういうことをやろうと思っています。
- 一方で、こうしたことをトータルに進めるためには、やっぱり情報発信、とにかく市が中心になって、先頭を切ってやらなければいけないと思っています。パンフレットなども、例えば皆さんで作るといっても大変でしょうから、もし市として情報集約をできたら、行事もすべてそこで年間行事予定とか行政として何か発信できないか、とちょっと思っけていまして、今中野市自体は、いわゆるフェイスブックもそうですけど、スマートフォンなどのメディアの使い方が遅れています。正直言いま

して、ただ流せばいいのではなくて、そこから情報を引き出すというようなことを全然やっていません。誰がいつどこから見に来ているかとか、そういう分析もしていません。こういうところもやっぱり遅れていまして、これからは若い世代には携帯端末で、私でも使い始めているのだから、これから多分定年を迎えてくる方は、もうこういうのは全然違和感ない気がします。そうすると全然お金をかけなくても、生の情報を瞬時にどんどん出せると思います。例えば、考え方として、冊子を作るのは大変かと思います。冊子は冊子でアナログですごくいいのですが、どんどん変えて情報発信するときは、こういうようなものは、原稿はほとんどいらさないし、機械だけあればできる。で、これが溜まると実はこういう本になっていってしまうのです。従来私が会社でやってきたことですが、そういった展開をして行きたいと思っています。また、来年度に向けては、観光面での拠点をとにかく作っていくことと、そうした交流といった切り口で、もう一度見直しをして、これまでのあり方とちょっと違った、その辺にもう一つ加えた深い交流を目指して行きたいと思っています。

- 中野市には、豊田の関係では、知音都市ですか、この間渋谷区に行ってきましたし、今度は鳥取にも行って来ようかと思っていますが、といった関係のある所は全て今までのものは大事にしつつ、さらにそれを活かし、もっと深い関係を作っていく方策はないだろうかと考えております。この間、ご存じだとは思いますが、木島平の「調布の市民の家」ってありましたが、結局、調布市が市長交代して、私、木島平村の村長さんに聞いたのですが、あれはそれまでの人間関係など、木島平村との信頼関係で出来上がっていたらしいのですが、そういう経過を、新しい市長さんが全然見ないで何をやったかという、行財政改革です。それはいらないと。ところが、あれを作るにあたってものすごい信頼関係で、調布市の人と、前の市長さんとか元の職員とかいろいろ重なって出来たあそこが売りに出された。で、いろいろやってみたけれど、結局あれは取り壊しになるそうです。もう少し村長さんが早く言ってくれたら、私はシェアリングなんかやったらいいのではと、思いました。調布だけじゃなくて、こちらのエリアと交流したいところがあるのだから、それぞれお金を出してもらって、向こうの4区共同とか、新しい提案があったかもしれません。木島平村にはありますけど、中野市がちょっと使わせてもらってもいいかなと思ったぐらいで。木島平村、近いじゃないですか。そういったような考え方って必要だと考えています。

- これは一事が万事、例えば、市民会館のこれからについて市民の皆さんに説明します。どんなものを建てるかってこともありますけども、これをとっても慎重に検討したいということで時間をかけますが、77市町村が県内にあるわけですが、77市町村が同じようなものを建てて意味がありますか。だからこういう交換できるも

のは交換すればいいし、やっぱり特徴のあるものを作っていきべきだろうなと提案しておこうかと思いますが、多々意見があろうかと思っています。

- その辺を広域で見て、これからやっていこうと思っています。そういった施設というのは、私が思い付いたものだけでも、東京方面で、渋谷区もこの間区長に会いましたが、中央区と品川区と、みんなですね、こっちへアプローチしたいと思っています。この間は埼玉県の2市くらいからオファーが来ました。やっぱり何らかの形で、東海ベルト地帯の人たちは、今危機感を持っています。だけど、全部それに対応することはできないので、私は、それなりの普段からの付き合いが重要ですってことを言おうと思っています。そういう意味での付き合いがなければ、住民同士の普段からの交流があって初めて受入体制というのはスムーズに進むもので、その辺を考えてこれからやらないきゃいけないかな、そういった整理をしていきたいと思っています。整理と言うのは言葉が変ですが、交流のあり方について内容の充実を図っていきたいと考えています。
  
- そういうこともあって、トータルで見ると中野市は泊まれるところが少ないと思います。ひょっとしたらもみじ荘に宿泊施設を作ってもいいかもしれない、というぐらいのことはしています。それが相互連携で中野市には長嶺温泉は別として、まだらおの湯、ぼんぼこの湯、もみじ荘があるとすれば、そこに付帯設備で、それが一括管理みたいなことがもしできれば、私は車で2、3時間もかかるところじゃないですから、十分やりくりできるだろうし、そういった受け入れも、今度は宿泊施設があれば、例えば、来年ばらサミットをやりませんが、例えば湯田中などに連れていく必要ないというのは、確かにそうです。中野にも温泉もありますって言ったら、ここで完結します。

## 農業政策について

- 何よりも中野の財産は、果物が採れる、食が豊かだってことです。果物が採れるって言うのは信越9市町村の中でも、特に飯綱とか信濃町とか除いてここを見ますと、中野市というのはものすごいところで、中心です。それがあから、他の自治体は羨ましがっている。羨ましがっているわりには、観光に関して真剣になって考えない。
  
- もちろんのことながら、観光の他にもう一つ、農業が大事ですが、農業に関してはある意味で中野市の切り口というのは、キノコもありますけれども果物類とかやっぱり農業生産技術とか取り組み、そういったものの高度化に向けて私は何か手を打



ちたいと考えています。これは今ちょっとやろうと思っけていまして、来年もし走れば試験的に走りますけれども、「東京方面で就農したいけれども、勉強する場所がないとか、じっくり起業・事業化するような場所がないっていう場合は、中野に来てください。」といったことで、学校ではないですが、人材養成塾みたいなものを作りまして、広く他地域から募集して、中野市独自で就農支援に関する仕組みを作り上げたいと考えています。また、信州中野に行ったら、就農したいときには、すごく競争が激しいけど、そこにはしっかりしたフォローがあって農業技術が勉強できて、圃場も用意されて、農業を起業して行けるというようなものがあると嬉しいと考えています。

- 今までの学校とか、ただ単純にお金を出しますとか勉強しなさいとかいうことだけじゃなくて、それから起業に向けてプラスアルファで支援していくというような仕組みのトータルな、インキュベーションと言うか機能を、中野市に作りたと思っています。実は外部コンサルを入れてやりたいと思ったのですが、外部コンサルがタダでやってくれると言って企画書作ってくれましたので、それでとりあえず一年試験的に走ってみようかと考えています。最初はそんなに大々的にやるのではなくて一本釣りで、農学関係の大学とか全国のそういうところで就農したい人の募集をかけて、いたら紹介してください、来てください、というようなやり方でやれば良いと考えています。例えば佐久市がものすごいお金をかけて、募集をかけたなら6人しか来なかったらしいですが、そんなことはやりたくない。そうじゃなくて本当にやりたい人は就農とか農業研修に来ています。そういった人の中でモチベーションの高い人をどんどん中野市の農業に従事してもらうために支援していく。今考えているのは「女性大歓迎、女性も結構です。」ということです。そういった人たちには婚活の一環でそういうこともできればいいな、また、女性に来てもらうというのは農業後継者の人にとってもいいことだなと思っています。そんなこともやりたい。私の農業政策はそんなところなんです。まだ他にもたくさん、本来の本質的な農業をどうするかといった問題があると思いますけども、一応観光的な側面から見るとそんなところなんです。

## その他の施策について

- 教育福祉関係では、今日もある村の会合でお話し申し上げたのですが、こらからは地域において人口を増やすっていうのは国の施策だと思っています。よく言われますが、一人目二人目は子供を産んでも支援しないけど、三人目を産んだら月十万円差し上げますと言えば、三人目を産んでくれるだろうといった、そういう極端な政策は、地方行政、自治体ではできません。じゃあ地方自治体では何をやるかという

と、そこが魅力ある都市だということをアピールすることによる他からの移住です。社会人口増を狙っていくのです。だから、インフルエンザの話も確かにそうだと思いますが、中学三年になって受験をするときに、インフルエンザにかからないようにみんな注射に行くそうですが、でも自費で行くのでは申し訳ない。だったら、弟とかが周りにいれば、一人でもかかればみんなかかってしまうかもしれないですから、中学三年までは少し援助して予防接種をやってもらおう。するとあそこは子育て環境がいいのかなければ、私は、これは都市間競争の要素になると思います。どういったことをやったら子育ての世代の人たちがいいとか、高齢者の方でもどういうふうにしてもらいたい、どうしたらすごく居心地がいい、気持ちよく暮らせるのか、質を考えて他にはないことを中野市でやっていくというようなことをやりたい。

- 「あなたが中野市の住民になったらこんな恩恵がありますよ。」といったことをやるためには財源が必要です。財源を生み出すためには稼がなければならない。だから、今指定管理制度でやっているところで、中野市がどんどん資力補給しているところについても一度経営を見直したい。本当にだめなのか、だめだとしたら経営が成り立つようなことをして市が本来積極的に使うべきところに投下していく。そういうところは例えば、民間でも公共でもいいのですけれども、もっと経営改革をしてもらって、赤字の垂れ流しをしない。それを一方ではやっていく。それで浮いたというか確保された財源で、先ほど言ったようなものに投下していく。道の整備もそうです。昨日ちょっと須坂の街の中を5キロ歩きましたが、ちょっと足に来てます。やっぱり歩きやすい街を作らないとだめです。ちょっと歩いて楽しい道、なんていうのもあると思います。そういうのもやっていきたいと思っています。ただ、そういうのもやっぱり財源です。財源はいくらでも捻出できるわけじゃないのですけど、結局、事業化しているようで事業化になっていないものだとかは、もうちょっと見直して、そういうところを削るとか、立て直すとかいうことをもって、トータルで中野市を運営していきたいと考えています。
- 今日ちょっと話したのですけれども、消費的な考え方、消費っていうのは使い切っちゃう、その時だけの満足ということですが、私がやりたいのは、投資的なことです。だから当然のことながら市庁舎も市民会館も、建てるとしても投資的な考え方でやっていきたい。だから作っても年間通して全然使わないとか、企業はそんなものは作らないわけですが、やっぱり使ってもらってなんぼの世界ですから、市庁舎についても使いやすさとかその辺を狙って運用とか運営とか考えていきたいと考えています。

- この間、佐賀県の武雄市に行って図書館を見てきました。スターバックスコーヒーの店舗が入っていて、なんと横に歴史資料館が併設になっていて、そこには古地図があって、本がたくさんあって、武雄市の全部が分かるようになっていました。そして、着きましたら駐車場が満杯でした。もちろん自転車で通って来ている人もいるでしょうけど、一番驚いたのは、中野の図書館ですと若い子が多いのですが、武雄市の場合はお年寄りが多いのです。みんな集まってそこでお茶しながら、ゆったり過ごして本を読んだり話したりしている。もうだからそこが、普段の行き場所、みんなの寄合場所みたいになっているような感じで、複合的な機能を活かしてすごい賑わいができている。
- これからの施設というのはどういったところだったらみなさん楽しくやって来てくれるのか。必要があって用事が終わったら帰るのではなくて、そこに行けばみんなが来ているとか、病院みたいですけど、病院じゃ困るのです。そうじゃなくて、やっぱり複合的な機能を備えていかなきゃいけないし、そういったものをもし建てるのであれば、やっていくのは今言われているコンパクトシティという構想なのかもしれない。
- あと、豊田の替佐駅を降りて、ここから「ふるさと散策」だな、と思えるような道の工夫など何か仕掛けをしていきたいと思います。豊田支所周辺も綺麗にしたり、ホールでは、高野辰之の関係市町村に声をかけコンサートをしたり。これを招待するのではなく、自分でお金を払って観に来てもらえるようなやり方にしないと長くは続かないと考えています。最近では、農村体験や田舎暮らしなどを提案している所もあるので、良い点を取り入れて自分でお金を払ってでも来てもらえるような価値のあるものを考えていきたい。そして話はめぐりますが、じゃあ、それを誰が実行するのかという話になりますけど、地域の人が寄り合って、知恵をだし、手間がかからないようなやり方をしているところもあります。今は、学生達が、ブログ等で仲間や材料を集めて、地域の方々と交流していくようなことをしているところもあります。工夫はいろいろあると思います。
- そういった受け皿となってくれる方を市としてはお願いをし、必要な資金は支援をして、事業化していきたいと考えています。ただ事務局を市に置いて、職員がやってくれるというのではなく。職員は地元にはいないから推進力や企画力がないのです。企画力は現場にあると思います。これからは地域の方の活動全体を支えていけるような施策をしていきたいと考えています。それ以外のニーズ、社会的に必要なインフラ整備などはしていくつもりです。そして、今の活動を見直して必要なところに資金を投資していきたいと考えています。話は雑駁ですが、これで私の話を終わります。

す。

## 懇談会

司会者：市長の思い等お話しいただきました。みなさんご質問等ありましたらお願いいたします。豊田地域は果樹地域ですが、北信州みゆき農協で援農隊といって、都会から来てもらい葉摘みや、収穫を手伝ってもらっています。その際には、もみじ荘でお風呂、食事をしてもらっていますが、宿泊は隣の町村に行ってもらっています。他の地域では、民泊してもらっているところもあるようです。

市長：学校や企業に対しても招致できるようになればいいです。

住民A：斑尾の湯の隣に保養センターがあるが、2年に一度キャンプで使っただけで、後は使っていない。今は利用していないが直せば使える。

市長：そういう場所をもっと有効活用していければよい。

司会者：「ふるさと」を商標登録してもらい、素晴らしい事だと思います。中野市は「ふるさと」の歌の発祥地の豊田村と合併して、「ふるさと」を日本の心の歌としてアピールしていったほうがいいと思います。米山からは中野市の中心市街地から千曲川から高社山、斑尾まで一望できます。先日のテレビでもこの眺めが素晴らしいと言っていました。この眺めを財産にってもらって、米山地区もがんばりますが、市政の中で活かしてもらえればと思います。

市長：中野市として観光戦略をどうすべきか、もっと連携をとりながら進めていかないといけないと考えておりますので、そこにぜひ参加していただければと思います。看板を建てるにしても、今は、各市町村別になっているが、信越9市町村広域観光になったのだから、統一すべきという意見も出ていますし、観光の事を考えながら道路に名前を決めていくなど、皆で協力しあい、横の連携をとりながら、費用対効果、宣伝効果を高めていきたいと常に考えています。

議員：毛の川地区に民家が1件空いていて、是非これを、交流振興の拠点にしていきたくてお願いしたところ、力をいれてくださるということですが、中野市に一番してもらいたいことは、我々にはない情報を発信していただいて、色々な人に観光や農業体験をしていただいたり、移住希望者を募ったり。今までにも活動はしてきましたが、宿泊施設がなかったのが、来春オープンできるようにこれから進めていき

たいと思っています。

市 長：実績ができる、そこだけではなく、色々なところにも作っていけると思います。

住民A：米山地区の道が狭いため、特に冬期間の除雪をお願いしたい。

司会者：若い人からも何かありませんか

住民B：宿泊施設を設けることは革新的変化になると思います。昔から泊るところがないので、せっかく来てもらっても泊まってもらえない、中野市を覚えてもらえない。宿泊施設を作ってそこを拠点として新たな色々な事が始まっていく。施設はとても重要だと思います。数は多ければうまく活用していけると思います。

司会者：中野には良い温泉もあるし、そこをうまく活用できればと思います。

住民A：出来ることからひとつずつしていけばよい。

市 長：議員から話があった時、これは良いと思いました。街の中でゲストハウスができないかとは思っていましたが、話がまとまりませんでした。できる人達からやってもらい、それを見て他の人達が勉強をしていけばよい。

住民C：街の中でも空き家はあるが、そういった場所を使ってもらおうとか、市に寄付するという話はたくさんある。

市 長：話はあるが、やってくれる人がいない。なにができて、何ができないか、皆で支えていかないと実行できない。

住民C：元気のある人でグループを作ってやってもらうのもいいと思う。

司会者：新幹線の飯山駅ができて、飯山から豊田地域は20分かかる。東京から2時間で来てもらえる。どのくらいの人に来るか心配している。ここを故郷と思って来てくれる人や、農業体験をしたいという人が来てくれると思う。援農隊は色々な場所から来てくれている。自分で交通費や、宿泊代を払ってまでも来てくれている人がいる。そうでないと長続きはしない。都会でマンションなどに住んでいる人はこういうところが良くなる。

住民C：永田地区に古民家を買って永住した人がいる。色々な事に挑戦などしている。

市長：来た人は皆がいいところに住んでいるといってくれる。それどうやってアピールしていくか、中野市として考えていかないといけない。

住民C：都市交流や姉妹都市などに、体験学習などができるという事を中野市で募集してもらえないか？

市長：広報誌などで、姉妹都市の中野市では体験学習などをしてしていると載せてもらえれば、よい宣伝になる。

住民C：姉妹都市として交流しているが、一年に一回イベントに品物を持っていくだけになっている。

市長：イベントベースは十分な経済効果につながっている。品物を持っていくことで、行ってみたいということになる。普段からの付き合いが重要になる。

住民C：昔、群馬県川場村に行った時に、東京都の杉並区と交流をしていて、杉並区の店舗では川場村で作る野菜などを販売しているみたいだった。

市長：川崎の商店街に中野の野菜を持っていったことがあるのですが、その商店街に8件八百屋があったが、産地や特徴を説明したら、販売してくれました。

住民C：中野区の八百屋に1年中定期的に中野市から仕入れてくれればいい。中間経費、流通経費など安くなるし、せっかく姉妹都市で交流しているのだから、発展させたい。

市長：発展させなくてはいけない。普段からの絆です。

議員：市長のトップセールスの成果も十分に上がってきている。そのあたりの話もしてもらいたい。

市長：先ほどの宿泊施設についても、施設が始まれば、直接売り込みにいきます。とりあえずは安定的に軌道に乗せていきたいと思います。農業体験等色々なニーズがあると思います。

住民C：何泊かしてもらい、農業体験をしてもらえばよい。米山の施設で自炊し、宿泊してもらってもいい。

市長：それも、提案しようと思いました。普段使用しない時に泊ってもらい、地域で監督してもらえばよい。

司会者：今までも農業体験をしてもらった人達に泊ってもらった事もあります。風呂はもみじ荘に行ってもらいました。

住民C：年間計画を建て、色々なグループと交流し連携していけばよい。プラムなど忙しい時期に手伝ってもらえばよい。

議員：一番の魅力は木になっているのを自分で採って食べられる喜びですね。

住民C：春の摘果、管理、収穫と年に何回か来てもらい、自分で作った品物ですよ周りに配ってもらえばいい。

議員：この集会場の利用情報をいれてもらってほしい。

住民C：活用をしてもらいたい。

議員：自炊してもらえばよい。

住民B：現在、この施設の裏を平らにしてキャンプ場を作っています。

住民C：桜の木があって、テントで寝てもらえるようにしている。

市長：いいですね。

議員：食材などは地区の皆さんで調達して。

司会者：農家で食事をしたり、民泊したりしたいという人もいる。そうすると女の人達が負担になる。

住民D（女性）：今日の集まりも、年寄会やさくら会で蕨を採ったり、新聞を配ったりしてお金を貯めたところからお金を出して、料理を持ち寄って夕飯がてらにみんなで

話を聞きましょうと声をかけたが、家に寝たきりの人がいたり、子供の世話、仕事で泊まりなど来られない女の人たちがいます。自炊をしたくないという人達の話もあるが、地元の女の人達も、家の事だから料理はしますが、他の人に料理を作ったり、世話したりするのは嫌です。そこを理解してもらいたい。利用者からお金を貰ったり、市で援助をしてもらいたいです。女の人たちの負担になるのは嫌です。

住民C：中には宿泊してもらいたいという考えの人もあるだろうから、自炊したり、農家宿泊したりと、色々なパターンを作って選んでもらうというのはどうでしょうか。

市長：青木村では1人受け入れると3千円の援助があります。だから1万人の人が来ています。そして青木村を楽しんでもらいリピーターになってくれる。ボランティアではだめです。協力してくれる人にもメリットがあるような仕組みを考えていけないといけない。その仕組みは地域ごとによって違うと思います。最後に、今日はざっくばらんに皆さんと話しができてよかったです。ありがとうございました。

以上（午後7時20分終了）